

# Shake Hands 常滑国際交流協会



第125号 2019年11月13日発行

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 電話・FAX：0569-34-4797

E-メール：ホームページ：<http://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



## 2019年度 第3期 接客英会話講習のお知らせ

常滑国際交流協会では、海外からのお客様との有意義な国際交流の出来る人材育成を目指して「接客英会話講習」を行っています。下記により2019年度第3期の「接客英会話講習」の参加者を募集します。

記

第3期日程：毎回水曜日、(全10回)

1月15日、1月22日、1月29日、2月 5日、2月12日  
2月19日、2月26日、3月 4日、3月11日、3月18日

時 間：午前10時～12時

場 所：とこなめ陶の森・資料館2階 講座室

講 師：Jason Ford さん・他 (H.E.Art 英会話)

募集人員：30名 (定員になり次第締め切ります。)

参加費：10,000円 (常滑国際交流協会の会員は8,000円)

この第3期から受講の方はテキスト代：テキスト代2,340円

\*常滑国際交流協会の個人会員の年会費は2,000円です。

\*まだご入会いただいていない方はぜひこの機会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

申込み：常滑国際交流協会へ氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡下さい。

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 **常滑国際交流協会**

電話・FAX 0569-34-4797 メールアドレス [tia@japan-net.ne.jp](mailto:tia@japan-net.ne.jp)

常滑焼まつりとやきもの散歩道散策に訪れた 21 名のグループの案内を 10 月 6 日に行いました。有松の染色のイベントに来たニュージーランド、アメリカ、オーストラリアーなどからの人々でした。人数が多いので 5 名のボランティアで対応しました。常滑焼まつりの会場では混雑で迷子になる可能性があるため、4 グループに分けて案内しましたが、それでも個々に行動し人数を把握するだけでも大変でした。昼食はまつり会場にて各自で弁当を買って競艇場のスタンドで摂りました。まつり会場の見学が終わって集合する時間には全員遅れずに集まりました。

やきもの散歩道 A コースを全部歩く時間は無く、暑いところを長く歩くのは大変なので短縮コースを考えて、競艇場から栄町交差点へ出て、県道を南へ向かい途中から散歩道に入り、先ず登窯へ行き、そこから逆コースで土管坂、巨大ネコ、陶磁器会館へと歩きました。かなり遅れて陶磁器会館に到着するグループや陶磁器会館へ寄らずに常滑駅へ直行した人もあり、結局流れ解散のようになりました。

今回のガイドは「常滑焼まつり」が主な目的で「やきもの散歩道」は予定時間が短いことや、「やきもの」に関心がある人が少ないようでした。まつり会場の混雑を心配して、前日に会場の下見をして昼食の場所なども工夫をしましたが結局、お客様が迷子にならないための道案内だけになったように思います。



## 2019 TSIE 派遣事業



### 西浦北小学校 マレーシア派遣

西浦北小派遣団は7月29日(月)から13日間、マレーシアのバンダーアングリッ小学校へ派遣し、8月10日(土)元気に帰国しました。マレーシアではソーラン節・剣道・忍者を披露し、クラスレッスンでは、日本語挨拶や折り紙、お茶会をマレーシア児童に教えることができました。最終日にはマレーシアの民族衣装も着させて頂きました。



### 常滑西小学校 メキシコ派遣

常滑西小学校派遣団は8月11日にメキシコのトーマスアルバエジソン校へ派遣し、8月25日に無事に帰国しました。メキシコでは歌舞伎の動きを取り入れた体操ダンスや大正琴を披露しました。メキシコの古い民謡を大正琴で弾いた時はとても喜んでもらえました。メキシコダンスの授業ではかわいいスカート履いて練習し、最後のパーティーではホストと一緒にメキシコダンスを踊りました。



### 鬼崎南小学校 マレーシア派遣

鬼崎南小派遣団は8月17日(土)から13日間、マレーシアのセティアアラム小学校へ派遣し、8月29日(木)元気に帰国しました。

マレーシアでは、銭太鼓や浴衣を着てさくらさくら、炭坑節を披露しました。クラスレッスンでは、折り紙、花見団子作り、福笑い、習字、盆踊りをマレーシア児童に教え、マレーシア児童からは武術、マレーシア料理、伝統舞踊などを教わりました。さまざまな民族衣装も着させて頂き、みんな大満足でした。ホストファミリーとも絆を深め、最後は涙のお別れになりました。



### 小鈴谷小学校 タイ派遣

小鈴谷小派遣団は、8月3日(土)~24日(土)の3週間、タイのプラサーンミット校へ行ってきました。

カルチャーショーでは楽器演奏や日本の新しい文化の一つでもあるヲタ芸を披露しました。クラスレッスンでは日本の神社やお寺の紹介から、お守り作りをタイの子ども達に伝えることができました。帰国前には、タイの子ども達が教わったお守りを手作りし、派遣団の元へ手渡してくれるなどの交流もできました。タイでは、タイ舞踊や伝統楽器を習ったり、ロボットを組み立てる授業など日本では体験できない貴重な経験をたくさんさせて頂きました。



### 直流～交流

## 英語を勉強する必要がなくなるか？

大学入試の共通試験でいろいろとトラブルが伝えられている。英語教育への批判、改変は明治・大正以来何度も繰り返されており、今に始まったことでは無い。

英語についての文科省の教育行政の施策ははたして長期的な深い慎重な考察から出されているのだろうか。『英語が使える日本人』の育成』は、文科省が実施した総合的な英語教育政策のタイトルで、小学校の3年生から英語を必修にし、中学や高校では英語教育は英語で行い、また中学・高校では「文法と訳読だけの授業」はもう行われていないなど、英語教育は「聞く、話す」の2技能にシフトされた。英語教育をめぐる「改革」の歴史は長く、1970年代から始まり、学校への音声機材やALTの導入からも20数年たっている。

何度「改革」が行われても、その後10年20年と経てその改革後の教育を受けた世代の人達の英語が目覚ましく伸びたと聞いたことがない。「中学・高校・大学と何年も英語を勉強したのに、海外で買い物も出来なかった」と言う大人達がなんと多いことだろうか。

英語は「唯一の国際語だ」「グローバル社会で生き残るためには英語は必須だ」はては「英語を公用語にせよ」と経済界からの圧力は増すばかりである。

しかしこのような状況は今後数十年も続くとは思えない。それは英語に限らず主な外国語を対象とした「機械翻訳」が急速に進化しているからである。インターネットの情報も機械翻訳で読むことが出来る。翻訳された日本語は必ずしも完璧とは言えないかも知れないが、年々その精度が改善されている。これからさらにAIの利用により加速度的に精度が向上して行くだろう。

音声翻訳では旅行会話の音声翻訳がすでに実用化されて多言語に対応した小型な翻訳機が沢山発売されている、スマートフォンで使えるアプリもある。これらの機械翻訳は旅行会話程度の英語ではTOEICの900点レベルだとも言われている。さらにこの分野の機械翻訳の精度は向上し実用範囲が広がって行くであろう。

そうであれば仕事に使う実用英語を目指して小学生から他の教科の時間を削るなど無理をして、全員が英語を学ぶ必要性はどんどん薄れて行く。機械翻訳の性能が上がった数十年後から現在を見れば、全員が小学校から英語を学んだり、大学入試の民間試験の導入で混乱したり、英語を公用語にする検討をしたりしたことは全く先が見えない愚かなことだったということになるだろう。そのような近未来はどんな世界であろうか。

もちろん言語を学ぶことは重要で、国語である日本語をさらに深く学ぶことと、多様な外国語を学ぶことによって、新たなものの見方や考え方を学ぶことが出来る重要性は将来とも変わらない。

